

指導チームの年別目標

表1は平成22年からの指導チームの目標である。「チェックシートの100%記帳・記録」「殺菌剤・消毒薬は安全（DDAC等含まないもの等）なものを使用」「生乳処理室の衛生管理と施設」「抗菌性物質の残留確認検査の受検の徹底と記帳」の4項目について目標を定めた。また、平成25年度にはチェックシートの簡略化に伴う記帳方法の変更があったため、その変更説明を実施した。

区分	H22	H23	H24	H25
記帳・記録	◎	◎	○	○
安全な資材	◎	◎	○	○
生乳処理室		○	◎	◎
残留確認検査		◎	◎	◎

指導の実績

表2は指導チームの実績である。平成22年は65戸の農家を2回巡回指導した。平成23年度は63戸の農家を2回巡回した。平成24年度は63戸の農家を3回巡回指導した。また、県内のチェックシート指導者が集まり、農家で実地研修を実施した。平成25年度は12月末現在、62戸の農家を2回巡回指導しており、さらにもう1回巡回指導する予定である。

	戸数	回数	人員	その他
H22	65	2	72	
H23	63	2	72	
H24	63	3	108	実地研修
H25	62	2(3)	63	

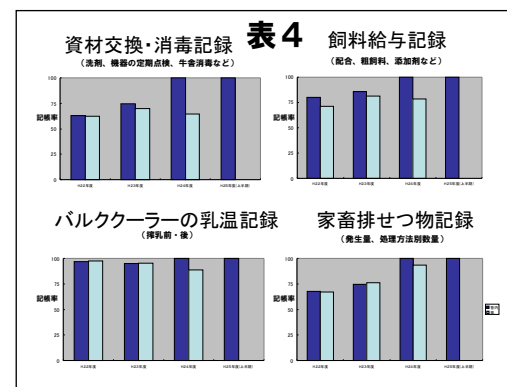
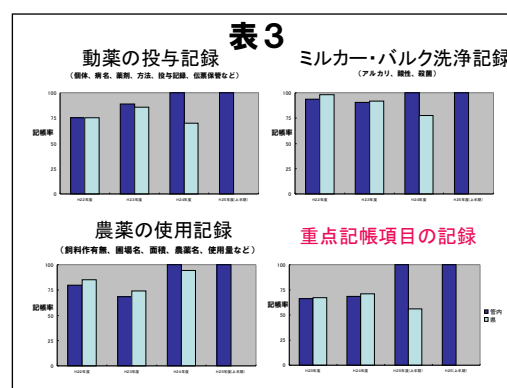
記帳結果

表3は「動物用医薬品の投薬記録（個体、病名、使用薬剤、マーキングの有無、治療日、残留検査日、出荷日票の有無）」、「ミルクカー・バルククーラー洗浄記録（アルカリ・酸性・雑菌剤）」、「農薬の使用記録（自給飼料の作付けの有無、ほ場名、面積、農薬名、品種、刈取り日）」の記帳率である。

重点記帳項目の記録は、これら3項目全体の記帳率である。これらはポジティブリスト制度対応の法令遵守の観点から、指導チームでは重点的に指導した。

表4は「資材交換・消毒記録（ミルクカー用・バルククーラー用のアルカリ・酸性洗剤使用、殺菌剤ディッピング剤使用、ライナー等ゴム部品の交換、ミルクカー・バルクの定期点検、牛舎消毒、衛生害虫などの駆除剤使用）」、「飼料給与記録（配合飼料・粗飼料・配合飼料、飼料添加物）」、「バルククーラーの乳温記録（搾乳前後）」、「家畜排せつ物記録（排せつ物発生量、処理方法）」の記帳率である。

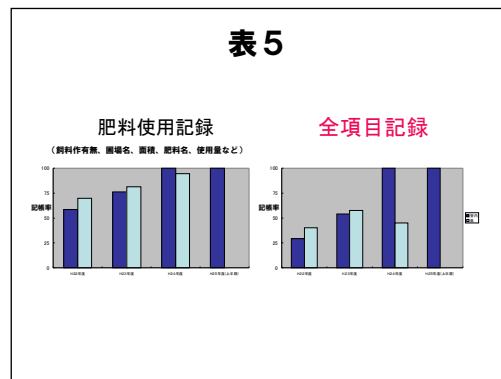
表5は「肥料使用記録（自給飼料の作付けの有無、ほ場名、面積、肥料名、品種、刈取り日）」、「全項目記録（チェックシー



トに記録すべき項目)」の記帳率である。

記帳調査の結果、平成24年から全戸が記帳できていた。

各表の平成25年度の県平均は年度末の集計のため未記入である。



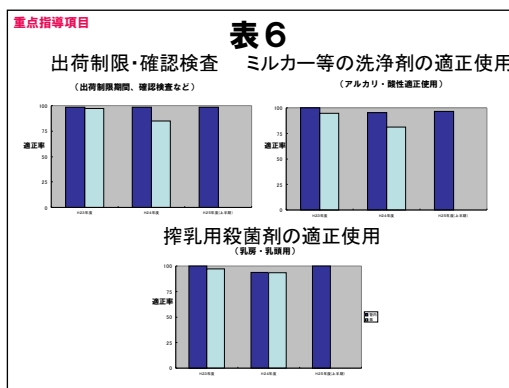
重点指導項目

表6はチェックシートに記帳・記録はできているが、的確に記入されているか否かを重点記帳項目として、平成23年度から検証を実施した。

「出荷制限・確認検査」では出荷制限期間を遵守し、必ず生乳出荷前に残留確認検査を受検し、その検査日を記入しているかどうかの検証である。平成25年度は2戸が適正に記録できていなかった。

「ミルカー等の洗浄剤の適正使用」では洗浄剤の適正使用の検証である。平成25年度は3戸がアルカリ性洗浄剤のみを使用し、酸性を使用していなかった。

「搾乳用雑菌剤の適正使用」では乳房・乳頭用の搾乳用殺菌剤の使用記録の検証である。平成25年度は全戸が適正だった。



まとめ及び考察

チェックシート指導4年間の取組の結果、指導開始2年で100%の記帳率となり、その後の2年間は記帳率が100%を維持した。この結果は、指導チームが農家へなぜ記帳が必要か？を粘り強く説明・指導をした結果であると考えられる。

今後も引き続きチェックシートへの確実な記帳・記録を指導・検証すると同時に8年間のチェックシート保管、残留確認検査の確実な受検の徹底と記帳の実施、生乳処理室の衛生管理の推進をする予定である。平成25年度2回目の巡回指導時に、バルク・ミルクレシパージャー内でカビ等の発生を多くの農家で確認されたので、清掃指導を実施した。今後、清掃確認を実施し、乳質との関連性を調査する予定である。